

建設地：宮城県牡鹿郡女川町（総合運動場内 野球場）

概要：スチールコンテナ積層／2階建て3棟、3階建て6棟、全189戸／駐車場189台

□多層仮設住宅の必要性

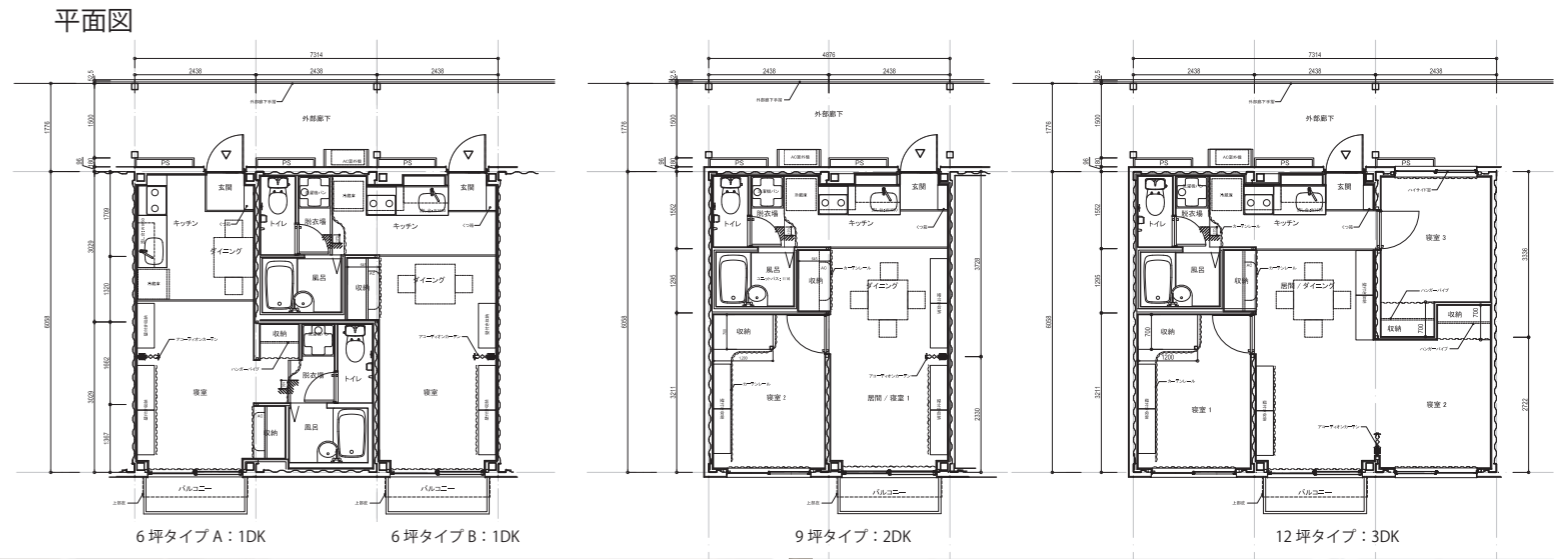
現在、被災地での仮設住宅の建設が始まっている。しかし、必要十分な戸数の仮設住宅供給の目処が立たない市町村もあった。その最大の理由は、被災地のほとんどが沿岸地域で十分な平地がなく、従来の平屋仮設住宅では十分な戸数が供給できないことである。そこで、既存の SHIPPING コンテナ（20フィート）を市松模様に積み上げて構成する2、3階建て仮設住宅を提案し、宮城県女川町に189戸建設することになった。

□多層コンテナ仮設住宅の特色

- 1、既存のコンテナを使うことによる工期の短縮
- 2、3階建てが可能で、狭い敷地や斜面でも多くの戸数を建設可能
- 3、コンテナを一つ置き（市松模様）につむことにより、コンテナの戸数を半減し、コンテナとコンテナの空間に開放的なLDKをつくることできる。
- 4、耐震性能に優れている。
- 5、恒久的なアパートとして使用できる。

□宮城県女川町での仮設住宅案

新しいタイプの仮設住宅の紹介としてモデルルームを宮城県女川町総合運動場に作り、7月17日に一般公開した。なお多層（2、3階建て）の仮設住宅を建設することにより、狭い土地により多くの戸数を建設できる。それにより住棟間隔を10m以上確保し、そこに集会所、マーケット、児童図書館やアトリエ（坂本龍一氏と千住博氏の寄付によりボランティア学生の手で建設）などのコミュニティ施設も建設する。



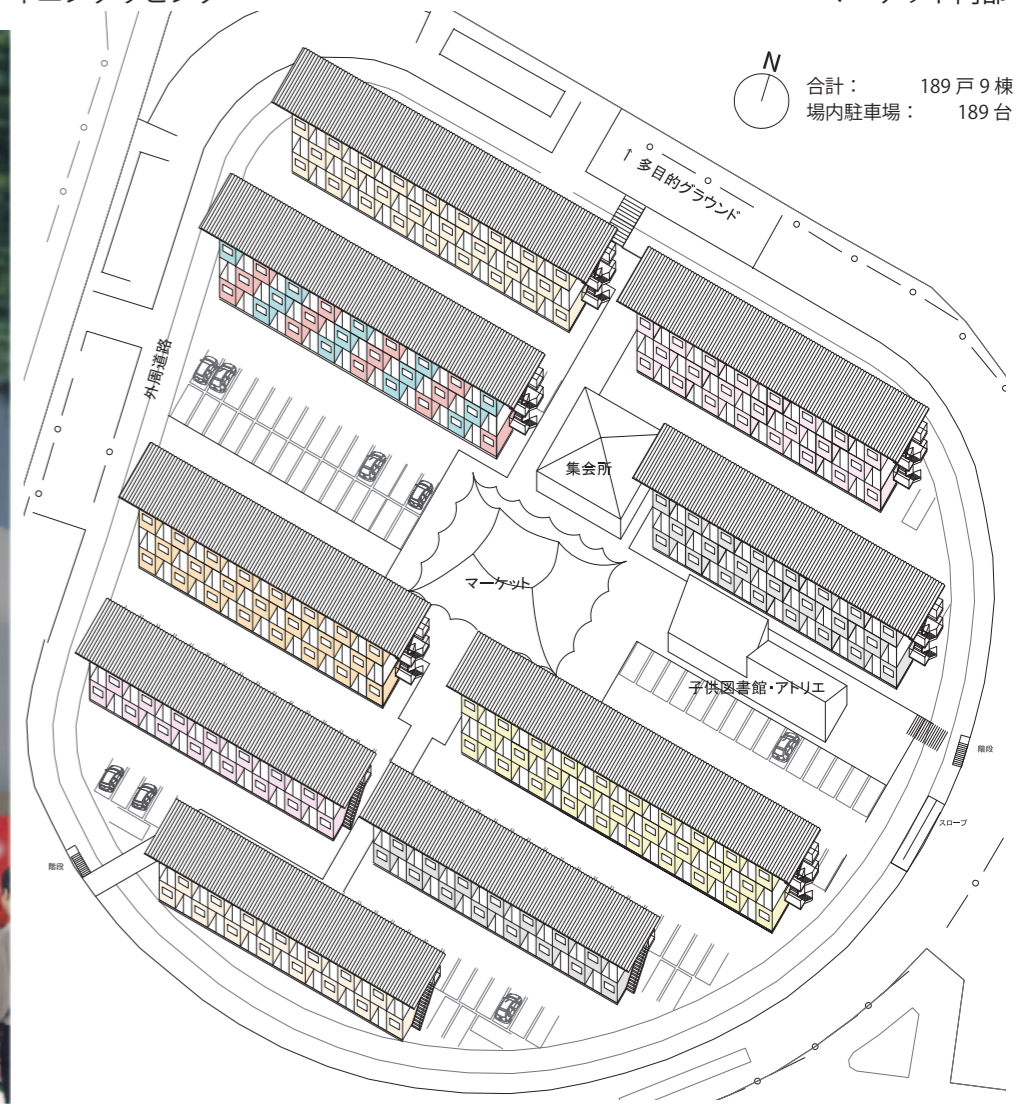
入口方向から見るダイニングリビング



マーケット内部



仮設住宅とマーケット



野球場 配置計画

建設地：宮城県本吉郡南三陸町

概要：木造／一戸建て／7坪1戸、10.5坪7戸、14坪7戸、全15戸／駐車場15台／集会所

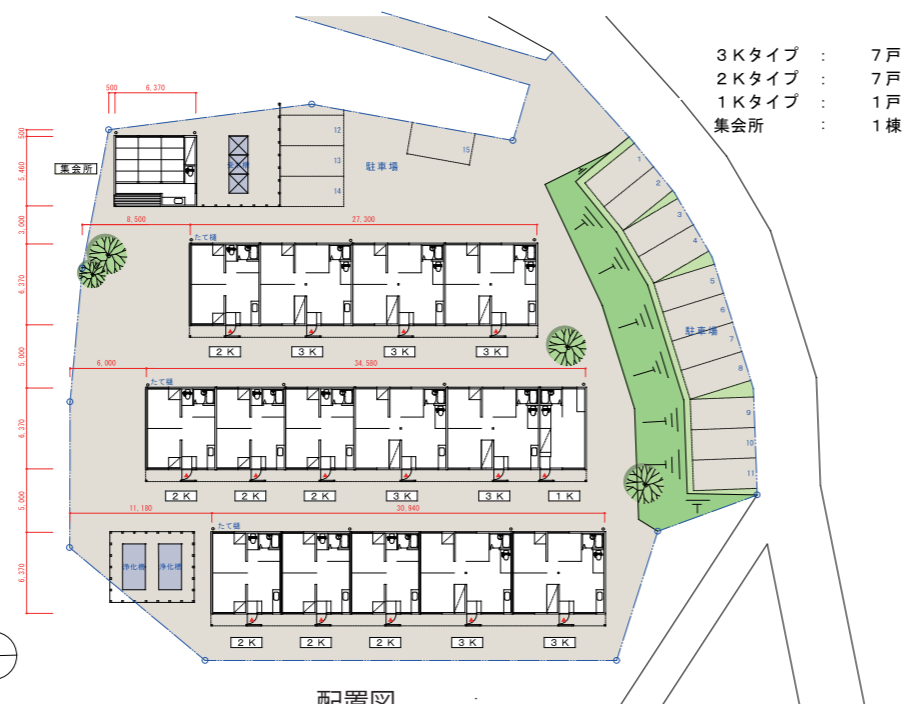
地域の産材+技術+知恵を生かす、被災地の復興をテーマとし、登米森林組合をはじめ、宮城県森林組合連合会が宮城県全体になるべく環境の良い応急木造住宅を提案しています。

森の環境保護（間伐材等の使用）、被災者の方々への心地よい木造仮設住宅、期間後も使用できる質の良い住宅です。もし解体しなければならない場合でも、期間後の解体の費用を含めてローコスト化を目指しています。

□ウッドシェルター：応急木造仮設住宅の提案

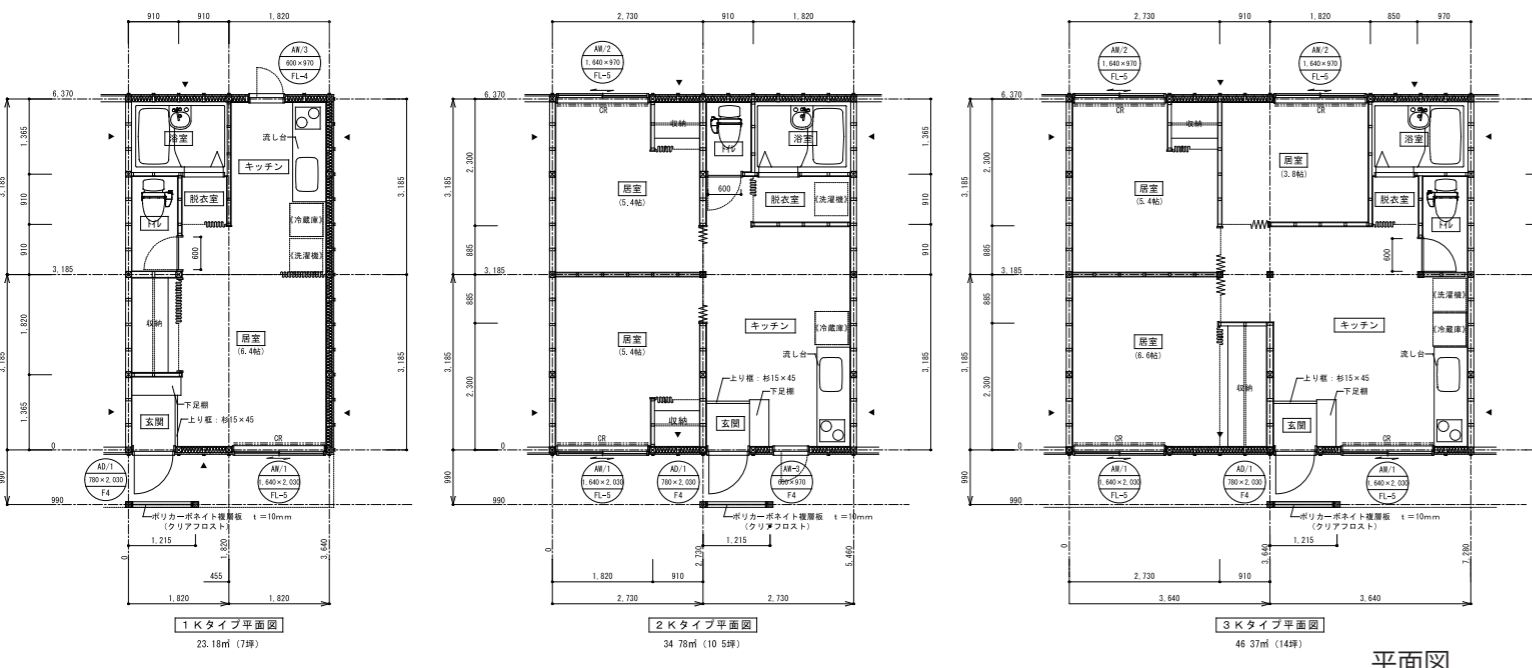
- 1、地域の材料でつくります
- 2、地域の技術でつくります
- 3、地域の知恵でつくります

わたしたちは、地域の暮らしを再生させる拠点となる仮設住宅を、そこに暮らす人々と共に、地域のなかで作り上げる地域地工型の木造仮設住宅の計画を提案します。長期間の仮住まいに対する負担を少しでも和らげることのできる、木の温もりに溢れた、やすらぎの住空間を提案します。



配置図

- 3Kタイプ：7戸
- 2Kタイプ：7戸
- 1Kタイプ：1戸
- 集会所：1棟



平面図



エントランス



仮設住宅群